

VOICE

三好町では、町民の皆さんからの町政に対する意見を町長が直接お聴きする、対話集会「皆さまと語る会」を開催したり、提言箱や電子メールなどを通して「皆さまの提言」をいただいたりすることによって「心の通う対話の町政」を進めていくと努めています。この「コーナー」では「皆さまと語る会」で寄せられた意見と町長の発言要旨や「皆さまの提言」に寄せられた意見のうち、主に生活にかかわる内容の意見と回答を紹介しています。

今回は「皆さまの提言」に寄せられた意見の要旨と、それに対する三好町としての考え方を抜粋で紹介します。

皆さまの提言

意見 (電子メール)

駅のバリアフリー化の工事を町が補助することについて

名古屋鉄道株式会社(名鉄) 駅構内のバリアフリー化について、三好町から補助金を出すことはおかしいと思います。民間企業の設備投資に、補助金を出すことは、いかげなものでしょうか。わたしは町から名鉄にサービス向上を促すことは要請しても良いと思いますが、補助金を出すことについては、問題があると思います。

バリアフリー化が駅を利用する人の利便性向上のためなら名鉄が自らそのサ-



黒笹駅(上)と三好ヶ丘駅(下)の両駅は、昭和54年7月に名鉄豊田線が開通したときから、高架の駅舎です

ビスの一環として行うべきだと考えます。サービス向上に努力しないと利用者から苦情が出たり、利用が減ったりすると思います。企業努力もしないで、補助金を受けるとしたら、それは問題だと思えます。バスの運行やそのほかのサービスなども同じように要望があったら町で対応しないといけないことになるのではと思います。行政の範囲を間違えないようにした方が良くと思います。

答え (担当 商工観光課)

交通バリアフリー法に基づく補助制度で事業を行います

黒笹駅と三好ヶ丘駅の周辺は住宅開発が進み、通勤や通学利用をはじめ町外からも駅を利用する人が飛躍的に増大し

ました。両駅とも、利用者は1日当たり5,000人を超えていることから、利用度の高い駅であると認識しています。ところが、両駅は高架駅にもかかわらず、お年寄りや身体に障害がある人などの負担を軽減することのできるエスカレーターやエレベーターなどの施設がないのが現状です。

今回、黒笹駅へのエレベーターと障害者対応型トイレの設置などのバリアフリー化の整備に補助を行うことについては、以前より黒笹行政区をはじめとする6行政区から強い要望が寄せられていました。また町としてもお年寄りや身体に障害がある人などが利用しやすい駅にするために名鉄に対して強くバリアフリー

コラム column



連載第39回

食育の大切さを考える

2年半前の平成15年4月から学校給食の調理を始めた新学校給食センター。子どもたちに栄養やカロリーに配慮した、安心安全な給食をよりおいしく届けようと努めています。施設は調理場の床や厨房機器を水で洗い流さず、常に乾燥した状態にして、細菌の繁殖を防ぐドライ方式を導入し、最新の厨房機器を備えています。しかし調理場の内部は熱と湿気で大変な量です。1日に約7,600食を調理している調理員の皆さんに頭が下がります。

さて皆さんはこの給食を子どもたちが残さず食べていると思いますか。残念ながら今年の6月には約4.5t、1日100000食強が食べ残されています。どうなっているのでしょうか。わたしは、このままではよくないと考えます。食べ残しをなくすには、家庭と学校挙げての努力や、よりおい

しい給食づくりの工夫が必要になります。そしてその基となる食に対する感謝の気持ちを育てることも重要でしょう。「飢え」という言葉を知らない今の子どもたち。「食育」の大切さを保護者や教職員の皆さんと一緒に考えていかなければならないと思っています。

食料の国内自給率は現在、40%といわれています。国はこれを2010(平成22)年までに45%に引き上げようという目標を掲げていますが、農業に従事する人の高齢化と後継者不足とても難しい状況です。輸入に頼る不安定な食料事情の中で、一カ月に4.5tの給食の食べ残しは、もったいないと思いませんか。

給食センターとの交流を進めたり、学校の給食委員会の活動を盛んにしたりした努力の結果、食べ残しの量が減った学校もあると聞いています。食の大切さをしっかり認識し、このコラムを読んだ一人ひとりの皆さんからの声掛けにより、まず家庭から子どもたちに「もったいない」と食に対する感謝の気持ちを伝えたいものです。

三好町長
久野 知英

11月7日(月)午前8時から、「コミュニティFM、ラジオ・ラフィート(78.6MHz)の「みよしモーニングニュース」で、久野町長がコラムの内容を話題に生出演します。

化を要望していました。名鉄も整備の必要性を分かっていたようですが、黒笹駅と三好ヶ丘駅のようにバリアフリー化を必要とする駅舎がほかにも多数あり、整備の順番を待っている何年、何十年先になるのか分らないのが現状であるということでした。しかし名鉄としては、補助が受けられるのであれば優先的に整備を進めることができるということでしたので、行政区からの要望や町議会との協議などを踏まえ、名鉄に補助を行いバリアフリー化の整備を進めてもらうことになりました。

名鉄に対する補助については、町が単独で行うものではなく、交通バリアフリー法に基づいて、国(国土交通省)の交通施設バリアフリー化施設整備費補助金制度や人にやさしいまちづくり事業などと併せて、国・県・町の3者が補助を行うこととなります。なお補助対象となるものは、駅のエレベーターやエスカレーター、誘導・警告ブロック、障害者対応型トイレなどのバリアフリー化設備の整備事業に限られています。

今回の補助は「三好町人にやさしい安心して住めるまちづくり基本計画」に基づき、お年寄りや身体に障害がある人などを始め、駅舎を利用する皆さんの利便性向上のために行うものですので、ご理解いただきたいと思います。

皆さまからの提言をお待ちしています



三好町では、心の通う対話の町政を進めていこうと、町政に対する皆さんからの提言をいただくため「皆さまの提言箱」を設けています。

▶設置場所＝役場、サンネット、サンアート、町民病院、総合体育館、中央図書館

※提言は「皆さまの提言箱」のほか、下記のいずれかの方法でも受け付けています。

- ①電子メール…✉ teigen@town.aichi-miyoshi.lg.jp
- ②ファクス…☎ (32)2165
- ③郵便…〒 470-0295 三好町役場広報情報課あて(住所不要)

広報情報課 ☎ (32)8357